

2023/7/24
成果発表会

【成果発表5】

『ソフトウェア品質保証の肝』書籍化に向けて ～『品質保証の肝』活用のススメ～

【メンバー】

アズビル株式会社

藤川 昌彦
(PM)

ネバーランド
(元株式会社リンクレア)

早崎 伸二
(リーダー)

株式会社構造計画研究所

川田 葉子
(発表)

富士通株式会社

小島 嘉津江

日本電気株式会社

北村 弘

TIS株式会社

桑原 秀昌

株式会社日立ソリューションズ

衣川 潔

源氏企画
(元富士通株式会社)

鎌倉 洋一

株式会社日立ソリューションズ

松本 道春

GC株式会社

横山 美枝子

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

増井 さくら

ピー・シー・エー株式会社

上符 仁司

【特別執筆協力】

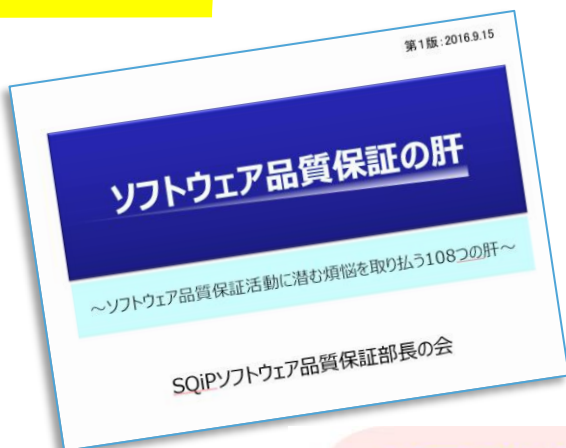
文教大学

佐藤 孝司

AGENDA

1. 「品質保証の肝」って何？
2. 「品質保証の肝」の魅力は？
3. 「品質保証の肝」書籍化の目的
4. 書籍「品質保証の『肝』」の特徴と活用のススメ
5. 書籍化に対する私達の「想い」
6. 皆様へのお願い

1. 「品質保証の肝」って何？



「ソフトウェアの品質保証の肝」とは「品質保証部長の会」で、2016年に公開したソフトウェア開発現場の問題解決に役立つ「ソフトウェアの品質保証」のためのノウハウ集

“品質保証プロセス/仕組みはわかっているが、現場でうまく運用できない”

- 品質保証部門長の“悩みが尽きない”!
- “わかっちゃいるけど、うまくいかない”!



◆一方、これらの悩みを、豊富な経験から解決してきた事例も、たくさん持っている

⇒これらの悩みと解決ノウハウを収集し、“肝”として整理した

【肝013】テスト見積りは組織としての考え方を統一する

【背景／悩み】

- 結合テスト以降は、プログラムやシステムの特性によりテスト項目の粒度が異なるため、一律に基準を設定することが難しい。
- テスト項目数とテスト工数がどれくらい必要かわからない。従ってテスト工期判断ができない。

【肝の説明／解決のヒント】

- 過去の開発実績データを元に、規模あたりのテスト項目数の基準値を設定する。工数も同様にテスト生産性から算出するか、工数案分を求めて見積る。
- 過去開発実績データを収集していない場合は、IPA（Information-technology Promotion Agency, Japan：独立行政法人情報処理推進機構）の資料等を参考に、組織としての基準を決める。
- テスト工数、テスト工期、テスト生産性、テスト人数等の組織標準が必要となる。
- テストの1項目の考え方を定義しなければ、組織としての標準データを収集できない。従って、画面参照系・画面操作系、帳票系、制御系を分けてデータを収集するとよい。
- 同様に、テストで検出されるバグ数、修正工数、確認工数、設計書改訂工数もデータ収集する。

【肝025】 監査結果の是正内容はリスクと共に伝える

【背景／悩み】

- 開発部門は、監査を形式的なことと考え、その場を乗り切れれば良いと思っている。
- 改善策の提示(是正指示)に対して、賛同はするが、改善しようとしなない。

【肝の説明／解決のヒント】

- 改善しないことが、どのような状況を引き起こすトリガーとなり、どのような結果が想定されるかを、過去の事例を交えて説明する。
- プロジェクト側が、「その工程の品質を確保した」ことの説明（証明）ができない場合は、次工程で起こりうる「リスクとそれによる追加工数、追加費用」を具体的に説明する。
- マズイ点が見えたとき、「個人の失敗がプロジェクトのやり方に起因していないか？」という観点でプロジェクトを監査し、問題を捉えて未然防止策を提示する。
また、是正策が総コストの削減に繋がることも説明する。
- 失敗の直接原因は必ず個人であるが、根本原因はプロジェクトや組織にあると考える！

【肝030】事業戦略として教育を定着させる

【背景／悩み】

- 一律に教育しても身についた人が中々育ってこない。
- キャリアパスをうまく設定できない。
- 年度初めに個人毎に教育計画を設定しても、プロジェクト活動が優先されて計画通りに受講できていない。

【肝の説明／解決のヒント】

- 経営層を巻き込み、現場の実態を共有する（多くの人が品質教育を受ける時間が取れない等）。強制力を持たせることも場合によっては必要。
- 事業領域の競争力を上げるために必要なキャリアを組織として明確化し、キャリア別に個々の社内ランクの技術者に求めるスキルを設定すると良い。
（会社が求める人財の見える化推進）
- 会社制度（昇級やキャリア認定）とリンクさせて、受講を義務化させるのも一つ。

2. 「品質保証の肝」の魅力は？

品質保証をやっている
人間にとって
非常に有益な情報

失敗とその解決を
山ほどやってきた！
そんな品質保証部長達の
豊富な経験と事例が
満載！



心に刺さる
格言が豊富

現場知として、
ノウハウが集約
されている。
これが一番の魅力！

自身と組織を
成長させる
原動力になる

「品質保証の肝」の魅力
とはどんなことでしょう？
読者からの声を
ご紹介します

最も確かな人材育成の方法は、「先人＝達人」からOJTを受けることだと考えられますが、「達人」の持つ「品質保証の肝」を活用することで効果的な育成が期待できます。

*達人とは
多くの成功と失敗の経験を、一旦抽象化し、勘どころとして身に付け、それを新たなプロジェクトに適用し、プロジェクトを成功に導ける、 および、高品質なプロジェクトに仕上げることができる人



3. 「品質保証の肝」書籍化の目的

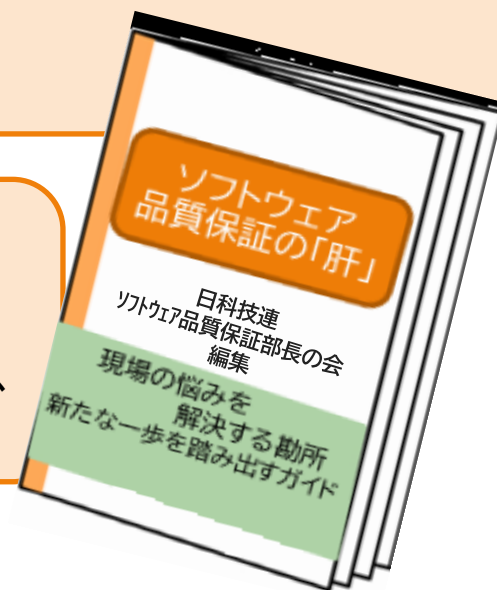


書籍化する目的

ソフトウェア開発現場の問題解決に役立つ「ソフトウェアの品質保証のための解説書」とする。

読み手の想定

ソフトウェアの品質保証の軸となるすべての方
経営層、プロジェクトマネージャ、ITアーキテクト、
ソフトウェアの開発技術者、ソフトウェアの開発責任者、
品質保証技術者、及び品質保証責任者



日科技連「品質保証部長の会」が編集することの意味

日科技連「品質保証部長の会」の知見で、
日本のソフトウェア業界の健全な発展に貢献することを目指す。

4. 書籍「品質保証の『肝』」の特徴と活用のススメ(1)

書籍化における方針

品質の本質

- 普遍的な品質の本質を解説する。

腹落ち

- 現場体験がベースであり、読者が腹落ちする品質施策を「品質保証の肝」を基に分り易く解説する。

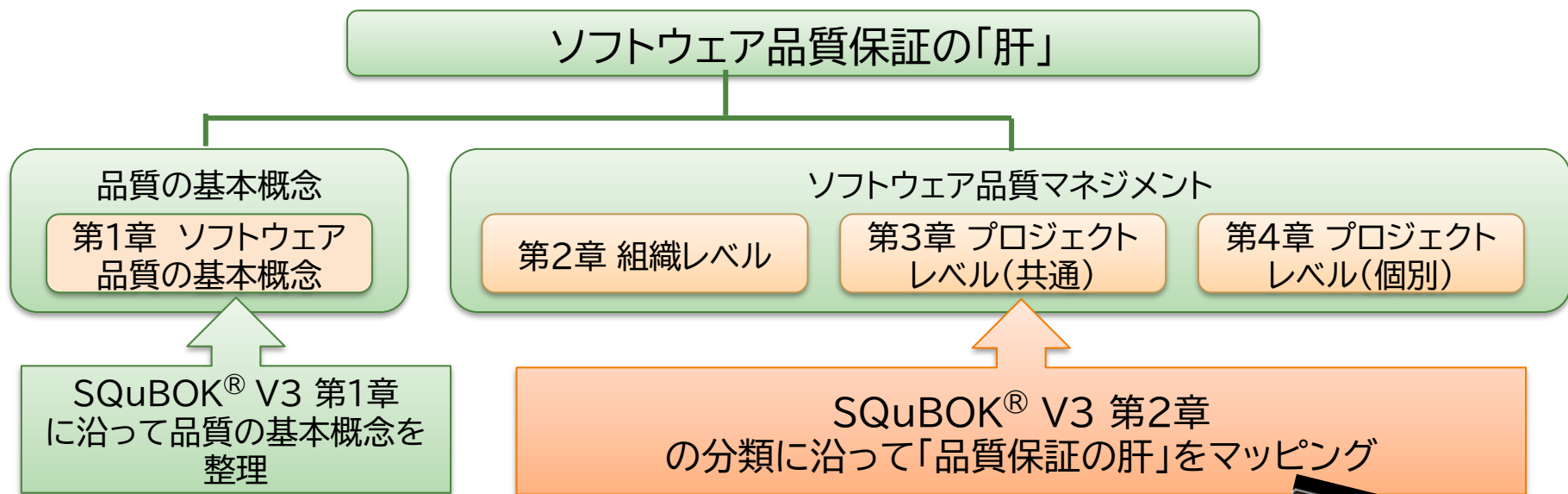
羅針盤

- 改善のヒントを持ち、新たな一步を踏み出す羅針盤として活用できるように、多くの解決策を載せる。

知識体系

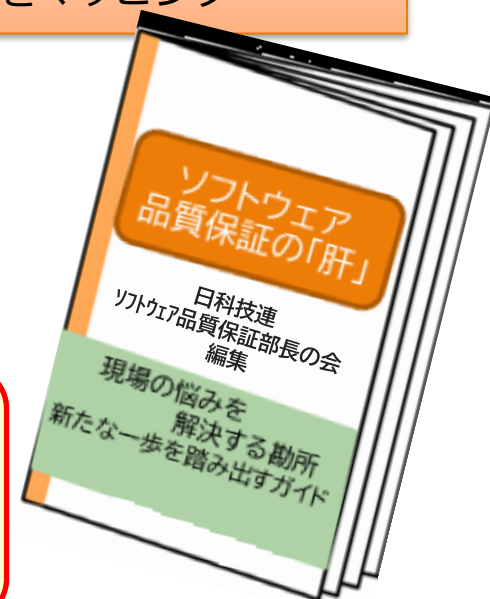
- SQuBOK®V3のソフトウェア品質の知識体系に沿って、ソフトウェア品質マネジメントに対する認識を深め、大切な勘所(肝)が理解できるような文書構成とする。

4. 書籍「品質保証の『肝』」の特徴と活用のススメ(2)



- 「品質保証の肝」を最新のSQuBOK® V3 に対応
- 品質の基本概念を冒頭に解説
- 読者が手に入れやすい価格設定
- VUCA、DX・・・現代のソフトウェア品質の悩みを解決する肝を厳選

装丁:A5版 ソフトカバー
 頁数予定:200ページ
 価格:3000円前後
 発刊:2024年6月頃



4. 書籍「品質保証の『肝』」の特徴と活用のススメ(3)

主な読み手と使い方

知識領域	第1章 品質の基本概念	第2章 マネジメント(組織)	第3章 マネジメント(PRJ共通)	第4章 マネジメント(PRJ個別)
主な読み手	品質の基本に立ち返る	組織として品質を保証する仕組みや考え方	複数のプロジェクトに共通する仕組みや考え方	個々のプロジェクトの工程別の品質プロセス
経営層(CQO)				
品質保証部門 標準化・改善の推進者 ISO事務局	ソフトウェア品質や品質マネジメントに関する基本的な概念と品質保証の重要性について再認識する	組織的に品質プロセスをマネジメントするうえでの悩みについて、解決のヒントを得る	プロジェクトで標準化すべき、品質マネジメントや品質保証技術の悩みについて、解決のヒントを得る	
プロジェクトマネージャ PMO			意思決定、リスク管理といったプロジェクト共通の悩みについて、解決のヒントを得る	正しい成果物を正しく開発するためのプロジェクト個別の悩みについて、解決のヒントを得る
開発技術者 プロジェクトリーダー メンバ				

4. 書籍「品質保証の『肝』」の特徴と活用のススメ(4)

我々が目指す書籍の「価値」

～ 市販の書籍には語られていない知見の提供 ～

- 実践的な知見を紹介し、実務に活用できる
- 活用することにより、品質技術者として
“大切にしたい想い”を共有する

5. 書籍化に対する私たちの「思い」(1)

知見の共有・活用

2016年から公開している「ソフトウェア品質保証の『肝』」は「品質保証部長の会」に参画したメンバーの実践的な知見や品質への思いがたくさん込められています。

書籍化

これを書籍化し、より多くの読者に読んで頂くことで、その知見を活用して、実践して頂ける方が増えたら・・・。

そして新たな実践経験をフィードバックして頂けたら、未来のソフトウェア品質の向上に繋がるのではないかと？

ソフトウェア品質保証という比較的特殊な分野で、様々な悩みを抱えている方々に対して、広く解決策を示せる唯一の書籍として、活用できるものに創り上げていきたいと考えています。

5. 書籍化に対する私たちの「思い」(2)

時代に応じたリバイス

2016年に「ソフトウェア品質保証の『肝』」公開した時点で感じていた最大の課題は、「はたして今後、この形式知をどうリバイスしていくか」ということでした。

書籍化

当時の執筆者の知見と想いを継承しつつ、時代の変化に応じて内容の更新が必要なものは、書籍化の機会に見直しをしています。

今回の書籍化を機に、7年ぶりにリバイスできることを非常にうれしく思っています。

5. 書籍化に対する私たちの「思い」(3)

「腹落ち」「納得感」「読みやすさ」

「ソフトウェア品質保証の肝」の作成当初は、
悩むを表す108の肝を如何に作るかが、大きな課題でした。
作成を進めていく中で、読みやすさを考慮し、
カルタや川柳の作成にも着手しました。

書籍化

カルタや川柳をコラムにかたちを変え、実際の企業での
事例などを解説することで、具体的な解決策をより読みや
すく示したいと思います。

(川柳もリバイスしてみようかとも思っています)

「品質保証の肝」の書籍を通じて、読み手が腹落ちできる
ようなヒントが得られ、皆さんの品質保証活動に活用してい
ただければ幸いです。

5. 書籍化に対する私たちの「思い」(4)

組織的なソフトウェア品質保証へ

品質マネジメントは、TQMの視点を強く意識しないと、とかく機能部門ごとの「点管理」になりがちです。

本書籍は、担当部署もスキルも業態も異なる方に対して求められる品質マネジメントのスキルだけでなく、

「自分のスキルの発見方法、スキルの繋げ方」が大切であることを啓発するとともに、具体的なプラクティスを学べ、現業で悩んだ時に、手元で引ける実践的なものにしたいと考えています。

ソフトウェア品質保証分野だけでなく、ソフトウェア開発分野でも活用可能な書籍にしていきます。



6. 皆様へのお願い

ご清聴ありがとうございました

- 出版した際には、ぜひご一読ください。
- みなさんの会社内でも宣伝をお願いします。
- 社内での教育の機会、勉強会等でご活用いただけると幸いです。
- 書籍の出版後も「出版記念セミナー」等、普及活動も検討しています。
- セミナー開催のあかつきには、ぜひ受講してください。



**ご清聴
ありがとうございました。**